

概 況

1 製造業：持ち直しの動きがみられる

- 一般機械器具：持ち直しの動きがみられる
- 輸送用機械器具：持ち直しの動きが続いている
- 電気機械器具：弱い動きとなっている
- 金属製品：一部に持ち直しの動きがみられる
- プラスチック製品：持ち直しの動きがみられる
- 食料品：持ち直しの動きが続いている
- 銑鉄铸件（川口）：一部に持ち直しの動きがみられる
- 印刷業：厳しい状況が続いている

2 小売業：一部に持ち直しの動きがみられる

- 百貨店：持ち直しの動きが続いている
- スーパー：一部に持ち直しの動きがみられる
- 商店街：厳しい状況が続いている

3 情報サービス業：持ち直しの動きがみられる

4 建設業：持ち直している

企業の声

【現在の景況感】

- 「民間の仕事は消費増税の駆け込み需要で契約数が増加した」（建設業）
- 「当業界の企業では好調だとの声が聞かれる」（プラスチック）
- 「年末年始の商材は、主力商品は昨年と同価格帯だが高価な品揃えも増やした」（スーパー）

【売上げ、採算】

- 「生産性の向上により、なんとか採算は向上した」（金属製品）
- 「売上げの減少、原材料の値上がりで採算は悪化した」（印刷業）
- 「クリスマスインテリアの単価が遊び志向や高級志向の高まりによりアップした」（百貨店）
- 「主力製品であった弱電と事務用品が数年前と比べて大幅に減った」（電気機械）
- 「官公庁よりも民間企業向けの売上が増えてきている」（情報サービス）

【今後の見通し】

- 「やっと上向きになった。浮き沈みのない緩やかな上昇を期待している」（一般機械）
- 「消費増税後は、消費者の財布のひもは固くなると思う」（食料品）
- 「自動車業界は円安の影響などから良い方向へ向かうのではないか」（輸送用機械）
- 「消費増税の影響がどうであるのか先が見えない」（商店街）
- 「普通に考えれば消費増税で悪くなると思うが、様々なファクターがあり先が読めない」（銑鉄铸件）

1 製造業 『持ち直しの動きがみられる』

(1) 一般機械器具 『持ち直しの動きがみられる』

- 【業界の動向】 県内の一般機械の鉱工業生産指数は、直近の平成25年10月で、はん用機械工業が105.8（前月比▲6.4%）、生産用機械工業が90.7（前月比+13.5%）、業務用機械工業が180.2（前月比+203.9%）であった。
- 【景況感】 「良くなっている。アベノミクス効果は持続しないと経営者は設備投資を実施しない」、「円安でトラックメーカーが動き、好況を実感できるようになった」との回答であり、「好況である」との回答が大半であった。
- 【売上げ】 「毎月の売上目標を達成している」、「全般的に前年より良くなってきている」など「増えた」との回答が多数を占めた。
- 【品目別の状況】 「トラック、自動車、医療、食品」向けは堅調である。一方で「半導体」向けは低調である。
- 【受注単価】 「適正価格まで戻らない。数アイテムが値上げできた」、「入札競争では単価は上げられない。単価によっては断ることもある」など「ほとんど変わらない」との回答が多かった。
- 【原材料価格】 「電気代が上昇した」、「非鉄について変化はなかった」、「主原料を海外からの仕入ルートに変更し、コストを下げた」など原材料価格については異なる回答となった。
- 【採算性】 「仕入方法の見直しにより、採算を改善させる予定であったが、受注減少により採算は悪化した」と「悪くなった」と回答する企業がある一方で、売上増加により採算が「良くなった」と回答する企業もあった。
- 【設備投資】 ヒアリングした企業のすべてが「実施した」との回答であった。
- 【今後の見通し】 「やっと上向きになった。浮き沈みのない緩やかな上昇を期待している」など「良い方向に向かう」と回答が多数を占めた。

(2) 輸送用機械器具 『持ち直しの動きが続いている』

- 【業界の動向】 国内の四輪車生産台数は、直近の平成25年11月では前年同月比10.2%増加となり、3か月連続で前年同月を上回った。
- 【景況感】 「当社としては良いが、アベノミクスの恩恵は中小企業まできていない」、「当社としては普通ではないか」、「自動車メーカーによって違い、まだら模様である」と様々な声が聞かれた。
- 【売上げ】 「前期に比べて20%位増えた」、「10%増であった前期とほぼ同じであり、依然として好調である」、「既存の受注は減ったが、新しい仕事を獲得したため若干増えた」、「主要な受注が減った分を他の取引先からの受注増でカバーしたので、前期とほぼ変わらなかった」と全般的に好調なところが多かった。
- 【受注単価】 「前年同期と比べて加工賃が1.5%位下がった」といった企業もあったが、その他の企業は「今期は変わっていない」といった回答であった。
- 【原材料価格】 「ステンレスの価格はほぼ変わらなかった」、「鉄やステンレスの価格は変わらなかった」、「原材料（鉄、ステンレス、アルミニウムなど）は100%有償支給で変わらない」と全ての企業で変わらなかったとの回答であった。
- 【採算性】 「人件費を抑制しコスト削減を図ったので採算性は良くなった」、「売上げが伸びたこと、外注すると利益が少なくなる受注について、これを内製化することによって採算性が良くなった」と「特に変わっていない」に分かれた。
- 【設備投資】 「NC旋盤を2台、自動検査装置を1台購入した」、「マシニングセンタを2台購入した」と設備投資を行ったところと「設備投資は実施していない」に分かれた。
- 【今後の見通し】 「自動車業界は円安の影響などから良い方向へ向かうのではないかと」、「当社としては良いが、中小企業全体で考えるとどうだろうか」、「自動車メーカーによって違おうだろうが、今期とあまり変わらないのではないかと」様々な声が聞かれた。

(3) 電気機械器具 『弱い動きとなっている』

- 【業界の動向】「県内の電気機械の鉱工業生産指数は、直近の平成25年10月に77.1となり、前月比で5.2%増と2か月連続の増加、前年同月比でも6.1%増加している。
- 【景況感】「半導体業界は不況である」、「大手メーカーでは工場の閉鎖をしており良くない」、「一部には良い企業もあるが悪い企業もある」といったように全般的に不況であるといった声が聞かれた。
- 【売上げ】「5年位前までは家電が多かったが、現在は少ない。遊戯関係も依然より悪いが、医療関係などの分野でカバーしたので前年同期と比べて少し増えた」、「前期からは少し減った」、「主力製品であった弱電と事務用品が数年前と比べて大幅に減った」といった状況であった。
- 【受注単価】「特に変わらなかった」、「年に2回の値下げ要請があるが、もうこれ以上の値下げはできないので拒んでいる」、「当社の海外現地法人から仕入価格を上げてくれるよう要請がきており、取引先と値上げ交渉を行っている」といった状況であった。
- 【原材料価格】「樹脂の価格は変わらなかった」、「銅の価格は変わらなかった」、「値上がりしたのもあれば、下がったものもあり全体ではほぼ変わらなかった」と変わらなかったところが多かった。
- 【採算性】「売上げが減ったため採算性は悪くなった」、「売上げと連動しており、売上げが落ち込んだので採算性は悪くなった」、「前年とほぼ変わらないが、昔と比べれば利益が多くできるものを扱うようになったので利益率は良くなっている」と様々な状況であった。
- 【設備投資】「本社工場を移転して機械設備を5台購入した」と設備投資を行った企業もあるが、「設備投資は実施しなかった」ところの方が多かった。
- 【今後の見通し】「一部には良い企業もあるが悪い企業もある。どちらかというとならぬ不況である状態は変わらないのではないかと」、「不況であり、同じ状態が続くのではないかと」といった企業があるなかで、「当社としては良い方向に向かうかもしれない」といった声も聞かれた。

(4) 金属製品 『一部に持ち直しの動きがみられる』

- 【業界の動向】県内の金属製品の鉱工業生産指数は、直近の平成25年10月に92.7となり、前月比で▲1.0%、前年同月比では▲6.7%と悪化している。
- 【景況感】「新聞報道にあるような数値ほど良くはない」、「一時期にくらべればよくなっている」、「良くも悪くもない」など、ヒアリングしたすべての企業が「普通である」という回答であった。
- 【売上げ】「太陽光パネル関連の売上げが減少した」など前年と比べて「減った」との回答が多かった。また、「ホンダ埼玉製作所、建設業からの受注を受けている企業は堅調であるがそれ以外の企業は変わらない」との回答もあった。
- 【品目別の状況】「好調」との話が多かったのは「自動車、トラック、医療、建設」など。一方で「不調」は、「家電部品」など。
- 【受注単価】「価格の引き下げ依頼が来ている」、「試作品から携わり付加価値を上げ、価格引き下げに堪えている」など、「ほとんど変わらない」との回答が多かった。
- 【原材料価格】「鉄の値段はかわらない」との声もあったが、「アルミ、銅、ステンレスの非鉄は上昇している」など原材料価格は「上がった」との回答が多かった。今後の見通しについては、「ほとんど変わらない」との見方が大半であった。
- 【採算性】「生産性向上により、何とか採算は向上した」、「売上高、原材料ともにほとんど変わらないため、収益性に変更なし」、「売上高の減少、原材料価格の上昇を吸収しきれなかった」など採算についての回答は異なる結果となった。
- 【設備投資】「競争力維持のため、設備更新していかなければならない」との回答や先行きについては「検討中であるが、受注増加が継続してくれば、設備投資していく」など、今後の受注動向によって設備投資を実施する企業が多かった。
- 【今後の見通し】「再生可能エネルギー、医療等の成長分野へ経営資源を傾注する」、「製造業を活性化するための経済政策に期待している」などの「良い方向に向かう」とヒアリングしたすべての企業が回答した。

(5) プラスチック製品 『持ち直しの動きがみられる』

【業界の動向】 県内のプラスチック製品の鉱工業生産指数は、直近の平成25年10月に90.1となり、前月比0.9%増と2か月ぶりに増加したが、前年同月比では1.0%減少している。

【景況感】 「当業界の企業では好調だとの声が聞かれる」、「特に好況とも不況とも言えず、普通といったところか」、「当社としては以前より良くない」と様々な声が聞かれた。

【売上げ】 「消費増税前の駆け込み需要の影響かどうかはわからないが、売上げは順調である」、「建材関係の伸びが大きく、前期に比べて10～15%位伸びた」、「新幹線のシートや劇薬用のタンクなどまとまった受注があり売上げが増えた」と順調な企業が多かった一方、「取引先企業の中国での売上げが芳しくなく、売上げが減少した」といった企業もあった。

【受注単価】 「一部の商品ではコスト増により受注単価を上げてもらった」、「値上げ交渉をしたが、受注単価を上げられなかった」、「決められた受注単価で取引しており、定期的な単価改定はない」と様々な状況であった。

【原材料価格】 「樹脂（塩化ビニール、アクリルなど）の価格は変わっていない」、「樹脂が3%位値上がりした」、「円安の影響で樹脂が5～10%値上がりした」と値上がりしたところが多かった。

【採算性】 「生産品目の構成が大きく変わったことから採算性は悪くなった」、「新しい仕事の設計変更が多く余計な手間がかかったり、海外の工場の準備経費がかかったりして採算性は悪くなった」と「ほぼ変わらない」といったように分かれた。

【設備投資】 「切断室を工場に設置した」、「9月に取得した隣地に倉庫を建設した」と設備投資を実施した企業と「設備投資は実施しなかった」という企業に分かれた。

【今後の見通し】 「当社としては、全般的に先が見えず、どうなっていくかわからない」、「消費増税により、4月以降はどうなるかわからない」、「今の状態は変わらない」と先行きへの不透明感を訴える企業が多かった。

(6) 食料品 『持ち直しの動きが続いている』

【業界の動向】 県内の食料品の鉱工業生産指数は、直近の平成25年10月に94.9となり前月比1.6%増と2か月ぶりに増加し、前年同月比でも4.4%増加している。

【景況感】 「食品業界はアベノミクスの恩恵がストレートに伝わる業界ではない」、「中食マーケット規模に変化は特にない」といった声が聞かれた。

【売上げ】 「前年対比は横ばい。今年引き下げた単価を戻しているところ」など「ほとんど変わらない」との回答があったが、「ヒット商品の寄与により、売上は前年同期と比べて増加した」、「商品構成がよく、10～11月で対前年比15%増加した」など「増えた」と回答した企業が大半であった。

【品目別の状況】 「高級食パンとロールパンが好調である」、「生スパゲティの売上がよかった」といった状況であった。

【製品単価】 「原価が高くなっており、なだらかに上げていく」、「消費税率アップによる単純な価格転嫁は難しい。付加価値をつけ値上げに理解を得るしかないと考えている」といった声があった。

【原材料価格】 「円安の影響により、原価率は1～2%あがった」、「小麦が値上がりした」とすべての企業が「上がった」と回答した企業が多かった。

【採算性】 「売上の増加にともない採算は良くなった」という回答が多い一方で、「原料費、光熱費を要因として悪くなっている」という回答もあった。

【設備投資】 「設備のメンテナンス」程度にとどまり、大半のヒアリング企業は「実施しなかった」と回答した。

【今後の見通し】 「消費増税後は、消費者の財布のひもは固くなると思う」、「消費増税直後は、売上が落ちると予測している。魅力ある商品を提供していくしかない。軽減税率はぜひとも導入してもらいたい」といった声が聞かれた。

(7) 鋳鉄鑄物（川口）『一部に持ち直しの動きがみられる』

【業界の動向】川口鑄物工業協同組合によると、鋳鉄鑄物の生産量は、直近の平成25年9月は前月と比べ10.7%増加し、2か月ぶりに前月を上回った。前年同月比でも8.0%増加し、2か月ぶりに上回った。

【景況感】「不況である」「どちらかと言えば悪い」と回答した企業が多かったが、取扱い商品によって景況感は大きく異なり、建築関係や輸送用機器向けを扱う企業では「好況である」との声も聞かれた。「リーマンショックからだいぶ時間がたっており、赤字にならないように手を打っておくべき」との意見もあった。

【売上げ】「減った」と回答した企業が多かったが、「前年度比で2割増えた」という企業もあった。「輸出は金額ベースでは増えているが、数量が増えておらず、鑄物等の部品の発注は増えていない」などの厳しい声が大半であったが、「仕入れに輸入品が少ないため、他社よりも値上げ幅を圧縮できており、徐々に受注が増えてきた」という企業もあった。

【受注単価】3割程度の企業が「値上げができた」とのことであるが、「値上げ交渉はしているが、物量を確保するためには強く言えない」との回答や、「値上げ交渉すらできていない」との声も多かった。

【原材料価格】「円安で多くのものが上がっている」、「今後も為替次第」、「中国の景気と需要の影響も大きい」とのことであった。「値上げできたので、1ドル105円までの円安であれば今の製品価格で耐えられる」との声もあった。

【今後の見通し】「先行きは厳しいとやってやっている」、「1～3月は良いと思うが4月以降はわからない」、「普通に考えれば消費税率のアップで悪くなると思うが、オリンピック等の様々なファクターがあり先が読めない」、「今後も意外と仕事は多いのではないかなど、先行きの不透明感を訴える声が多かった。また、賃上げについては厳しい意見が多いものの、「今の売上が維持できれば、消費税率のアップに合わせて賃上げできそう」との前向きの声もあった。

(8) 印刷業 『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】県内の印刷業の鋳工業生産指数は、直近の平成25年10月は106.4となり前月比3.9%増加、前年同月比でも0.2%増加となっている。

【景況感】「競争は厳しい。生き残ることができる分野をみつけないといけない」、「印刷業で良いといわれている企業は全体の20%程度、良い顧客をいかにして確保するかが課題である」、「業界として厳しい」など、ヒアリング企業の大半が「不況である」との回答であり、厳しい状況が続いている。

【売上げ】「昨年が良かったため、今期は前年比▲10%となった」、「官公庁の入札が厳しくなっている」など「減った」との回答が多かった。一方で、「大きな入札に成功したため、前年比+30%となった」など「増えた」と回答した企業もあった。

【受注単価】「価格維持の最終局面に差し掛かっている。その後の値上がりに期待している」、「下げ止まっているが、値段はそのまま推移している」など、受注単価は「ほとんど変わらない」との回答が大半を占めた。「まだ下落基調はとまらない」など「下がった」との回答もあった。

【原材料価格】「外国為替の影響により原材料の価格は上昇した」など「上がった」と回答した企業が大半であった。先行きについても「製紙メーカーが卸に引上げを要請した」、「値上げ交渉はきているが、据え置きの実施している」など「上がる」との回答が多かった。

【採算性】「売上げの減少、原材料費の増加」を主な要因として「悪くなった」と大半の企業が回答した。

【設備投資】ヒアリング企業のすべてが「実施しなかった」と回答した。先行きについては、設備投資を検討している企業が多かった。

【今後の見通し】「消費増税、オリンピックをチャンスとしてとらえている」と良い方向に向かうとの回答がある一方で、「ペーパーレス化は止められない」と「悪い方向に向かう」との回答もあった。

2 小売業 『一部に持ち直しの動きがみられる』

(1) 百貨店 『持ち直しの動きが続いている』

【業界の動向】 商業販売統計によると県内百貨店の販売額は、平成25年10月は前年同月比4.1%の減、11月は同0.1%の増となっている。

【景況感】 「アベノミクス効果や消費税増税前の需要増などにより底堅い動きとなっている」という店舗がある一方、「10月の台風や11月の高温の影響などにより、マスコミが報道するような好調さは実感できない」とする店舗もあった。

【売上げ】 10月は台風が3回も来たことにより前年比マイナスとなり、12月に入って寒さが本格化したことで売上げ増となった店舗が多かった。

品目別には、衣料品は、婦人服がコート類を中心に不振の店舗が多く、紳士服はコートなどビジネス関連が売上げ増となった店舗とカシミア、純毛セーター等カジュアル類が増となった店舗に分かれた。服飾雑貨類はブーツが11月の暖かさの影響で不振の店舗が多く、「ブーティ（短めのブーツ）は好調だが、単価が低いので数をこなす必要があるが厳しい」といった声があった。

食料品は、生鮮三品が魚を除き売上げ増となり、「牛肉の高額品が伸びている」、「百貨店としての品質の高さが評価されている」など好調な店舗が多かった。

クリスマス関連では、景気回復の傾向を受け売上げ増となった店舗が多く、「1万円のブランドケーキが完売した」、「インテリアの単価が、遊び志向や高級志向の高まりによりアップした」などの声が聞かれた。

宝飾品は好調さを持続している店舗が多く、「腕時計は男性、女性物とも好調」、「外商による売上げが寄与、1月に逸品特選品フェアを開催する」などの声があった。

【設備投資】 秋シーズン以降に備えた大規模改装を夏に終えた店舗が多く、目立った動きはなかった。

【採算性】 「売上げが増える分、販促費もかけているので大きく改善しているとの実感はない」とする店舗がある一方、「人件費の削減効果により良くなった」という店舗もあった。

【今後の見通し】 「消費税率引き上げを見据え、バーゲンの前倒しやセールの開催数の増など攻勢をかけていく」など全ての店舗が3月までは売上げ増を見込んでいた。

(2) スーパー 『一部に持ち直しの動きがみられる』

【業界の動向】 商業販売統計によると、県内スーパーの直近の平成25年11月の販売額は、既存店ベースでは前年同月比0.8%の減少となり、5か月連続で前年同月を下回った。一方で、全店ベースでは同2.9%の増加となり、9か月連続で前年同月を上回った。

【景況感】 ほとんどの店舗が「普通である」と回答したが、「好況とまでは言えないものの良くなってきている」との意見も多かった。「年末年始の商材は、主力商品は昨年と同価格帯だが、高価な品揃えも増やした」など、「財布の紐は少しゆるくなってきている」と感じている店舗が多かった。一方で、「卵の安売りに400人が並んだ」など、まだ価格にシビアな姿勢の消費者が多いこともうかがえた。

【売上げ】 「増えた」店舗と「減った」店舗に分かれた。野菜の高騰もあり、ほとんどの店舗が「食料品の売上げは良かった」とのことであった。一方で、「夏が短かったため、9月以降衣料品が苦戦した」との声もあった。また、日用雑貨品については「昨年はマスクの特需があったため、昨年よりは悪いが例年なみ」とのことであった。また、「ハロウィンの売上は良かった」が、規模が小さいため売上への影響は少ないとのことであった。

【採算性】 「変わらない」との回答が多かった。ただし、「衣料品が売れないと採算性は良くない」という声もあった。また、「近隣の時給が上がっており、店員の防寒用に制服の下に着るベストを支給するなど人の確保に躍起になっている」と、人材が不足してきていることを感じている店舗もあった。

【設備投資】 「売場の改装を行い、改装セールの上売が非常に良かった」との回答もあったが、実施しなかった店舗が多かった。

【今後の見通し】 「4月以降に落ち込むことは間違いないが、どの程度かが予測できない」、「消費増税は、ネット通販の浸透度合いなどによっては予想以上のインパクトを受けるかもしれない」など、消費税率アップ後の影響が読めないことを心配する声が多かった。

(3) 商店街 『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】平成26年1月の月例経済報告は、個人消費について、「一部に消費税率引上げに伴う駆け込み需要もみられ、増加している」と総括している。

【景況感】「何となく景気が良くなっているような気がするが、大手企業のように商店街までアベノミクスの効果は来ていない」、「最近、消費者行動が変わったということはない」、「必要なモノ以外は買わず、遊びでモノを買うこともない」といった声が聞かれた。

【来街者】「イベントをたくさん実施したので、前年より来街者は増えている」、「イベント開催時はたくさん来るが、普段のときの来街者は前年と変わらない」、「来街者は前年とほとんど変わらない」といった状況であった。

【個店の状況】「飲食店には客が入っているが、物販店は苦勞している」、「元気な店はいつもと同じで魚屋、菓子屋、だんご屋などである」といった声のほかに「個店の経営者が高齢化しており、いつやめるかしか考えていない」といったことも聞かれた。

【商店街としての取組】「10月に開催された埼玉B級ご当地グルメ王決定戦にあわせて、『百円商店街』、『人力車』や『屋台村』など様々なイベントを実施したので当日はたくさんのお客さんが来た」、「10月に『ナイトバザール』のなかでナイトバザールウェディングやハロウィンパーティーなどを実施した」、「2か月に1度、食べ飲み歩きの『楽しま night』を実施している」、「街バルを年末、年始の2回（『クリスマスバル』、『初詣バル』）実施する予定である」、「12月に『クリスマスカーニバル』（第九の大合唱、歳末大抽選会、益子焼や益子町の農産物直売等）を実施し、約一万人の来街者があった」と多くのイベントが実施された。

【今後の課題等】「イベントを実施すると人が集まるのに、各個店が新規顧客獲得のための努力をしていない」、「商店街活動の中心となる人は、物販店の人が多くなってしまおう」、「商店街単独では力不足なので、県や市などの行政をまじえて街づくりを進めていかないと商店街は成り立たない」といった話があった。

【今後の見通し】「消費増税の影響がどうであるのか先が見えない」といった声が聞かれた。

3 情報サービス業 『持ち直しの動きがみられる』

【業界の動向】特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、直近の平成25年11月は前年同月比で2.9%の増加となり、4か月連続で前年同月を上回った。

【景況感】「普通である」との回答が多かったが、一部に「好況である」との声も聞こえた。「積極的に投資していこうという気配が顧客にある。本業の業績が良いのではないか」、「好景気とまでは言えないが、少し良くなってきている」などの声が聞かれた。ただし、「好景気なのは東京のみ」との声も多かった。

【売上げ】「増加した」とする企業が多かった。「不況時には官公庁向けの売上が多くなるが、現在は民間向けの売上が増えてきている」とのことであった。また、「震災以降、明らかにBCPやセキュリティに対する関心が高くなり、クラウドサービスの売上が大きく伸びている」、「タブレット端末にビジネスで使えるアプリケーションやソリューションが出てきており、顧客も興味を持っている」、「タブレット端末のセミナーを実施すると反応が良い」などの声も聞かれた。

【受注単価】全ての企業が「ほとんど変わらない」と回答した。「上がってはいないが、値下げ圧力もない」とのことだった。ただし、「リーマンショックで下げられたまま上がらない」と10年前よりは下がっているとの意見が多かった。

【採算性】多くの企業が、「優秀な従業員を残しており、残業代が減った」など、人件費の縮減に努めているとのことだった。ただし、「手当を新たに作るなど、給与を調整している」と優秀な従業員には還元する姿勢の企業も多かった。

【設備投資】「自社ビルの外壁を塗りなおす予定」、「営業用の車を購入した」など、投資した、もしくは投資予定の企業が多かった。また、ほとんどの企業が「パソコンは安いので随時購入している」とのことであった。

【今後の見通し】ほとんどの企業が「良い方向に向かう」と回答した。「オリンピックまでは良いのではないか」という意見や、「カジノに向けて開発を準備している企業があるなど、新たな案件も出てきている」とのことであった。また、「消費税率の変更に伴うシステム開発の発注はあるが、制度が流動的なため最小限の対応しかできない」と、早期の制度決定を望む声もあった。

4 建設業 『持ち直している』

- 【業界の動向】** 埼玉県「建設総合統計（出来高ベース）（国土交通省）」は直近の平成25年10月で、前年同月を10.0%上回っている。
- 【景況感】** 「消費増税による駆け込み需要で契約件数は増えた」など、「好況である」と回答した企業がある一方で、「仕事は増えても原価が上昇していくので、利益は厳しい」と「不況である」との回答した企業もあった。
- 【受注高】** 「民間の仕事は消費増税の駆け込み需要で契約数が増加した」、「官公庁の仕事も増えている」など「増えた」との回答が大半であった。
- 【受注価格】** 「発注書には丁寧に値上げ要因を説明している。発注者も状況を理解してくれている」、「公共工事では入札不調が起きており、建設会社が無理をしなくなっている」など、「上がった」回答があった。しかしながら、「競争が厳しく、単価の上乗せはできない」と、「ほとんど変わらない」との回答もあった。
- 【資材価格】** 「型枠、鉄筋、生コン等の資材は前年同期比10%上昇した」、「木材が円安の影響で前年同期比約10%上がった」、「職人を雇う単価が上がっている」など「上がった」とヒアリングしたすべての企業が回答した。先行きについても資材価格の上昇傾向は続く予測である。
- 【採算性】** 「資材上昇や職人の労務単価が上昇した分、採算は悪くなっている」など、「悪くなった」という回答が多かった。しかし、「以前受注した工事の採算はよくないが、今受注している工事の採算はよくなっている」という「良くなった」という回答もあった。
- 【設備投資】** 設備投資を実施した企業が依然として少なかったが、今後実施を予定している企業は多かった。
- 【今後の見通し】** 「消費増税後の動向を心配している」と「悪い方向に向かう」と回答した企業と「4月以降も良い流れであってほしい」と「良い方向に向かう」と回答した企業に分かれた。